

# 八鍬 友広

やくわ ともひろ

1960年生まれ

研究領域：日本の教育の歴史

テーマ：識字とリテラシー

担当授業科目：人間形成論講義・人間形成論演習

人間形成史特論など



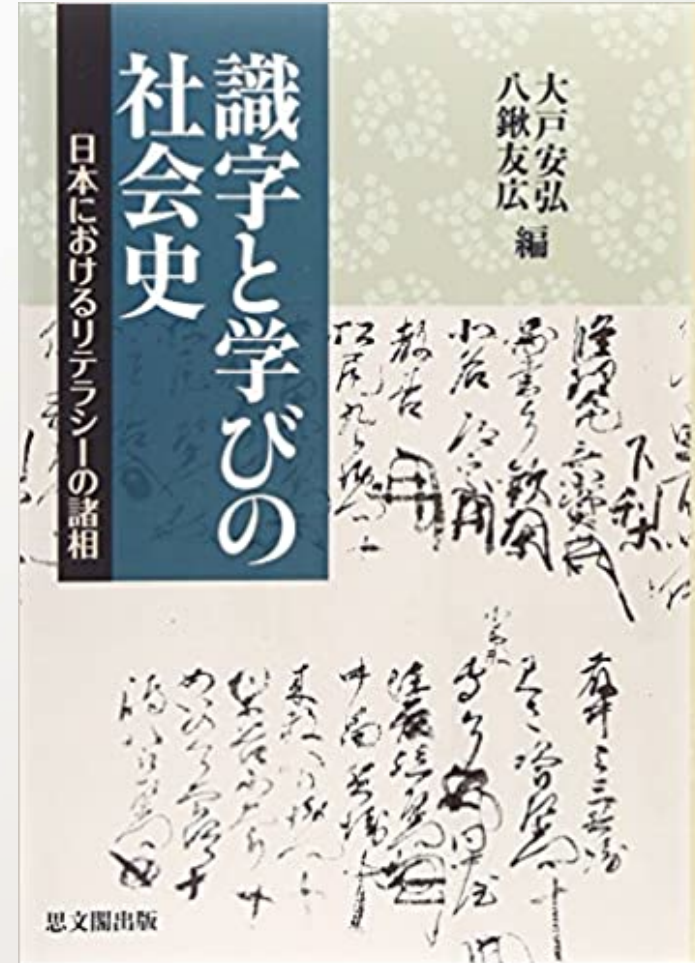


江戸時代、子どもたちが百姓一揆の直訴状を学習していた！ こんな話を聞いたら、皆さんはどう思われるでしょう。皆さんがこれまで学校で学習した「江戸時代」のイメージと比べてみて、どうでしょうか。そんなことはあるはずがない、もしかすると、そう思われるかもしれませんね。しかしこれは事実なのです。一揆だけでなく、村境の争いをめぐる裁判に提出された訴状なども、読み書きの教材となって、普及しているのです。このような教材が、これまで10種類も発見されています。歴史とは本当に不思議ですね。

2017年に刊行されたこの本については、読売新聞、河北新報、日本農業新聞などで取り上げられました。

江戸時代の日本の識字率（文字の読み書きができる人の割合）はどれぐらいだったのだろうか？ そんな素朴な問いから、この本はできました。江戸時代の識字率なんて、どうやって調べるのか、とそう思われるでしょうね。じつにそのとおりなのです。当時は文科省などありませんし、そのような統計もありません。ですから、正確な識字率を明らかにすることは、永久にできないでしょう。それでも、さまざまな手法を駆使して、その問題に迫ろうとしたのがこの本です。もちろん、わかったことは多くありません。ですが、識字と学びの一端について、その多様な在り方を、本書は明らかにしえたと思っています。

2014年に刊行された本書は、現在、その英語版の刊行が予定されています。世界の人々に読んでいただけることを願っています。





皆さんは読書は好きですか。本を読むとき、皆さんはどのようにして読みますか？ 黙って一人で読むに決まっている、そう思われるかもしれませんが、このような読書の仕方（黙読）は、さまざまな読書のひとつにすぎません。音読や、朗読、朗詠など、さまざまな読書のスタイルがあります。このような読書の歴史、および読書のために必要な文字を読み書きする能力の形成の歴史について書かれたのが、この本です。

リテラシーという言葉は、現在きわめて拡張された内容を示すものとなっています。情報リテラシー、地図リテラシー、メディカル・リテラシーなどなどです。ですが、リテラシーのもともとの意味は、文字の読み書きをおこなう能力のことでした。2010年に刊行された本書は、このような意味でのリテラシーの歴史を描き出そうとしたものです。

# 人間形成の歴史的探求の世界へ！

人間はどこから来て、どこへ向かっているのでしょうか。この問いは、人間そのものを問うことであり、「私」が何者であるかを問うことでもあります。そんな問いの世界へ、若い皆さんにもぜひ飛び込んで来ていただければと願っています。

